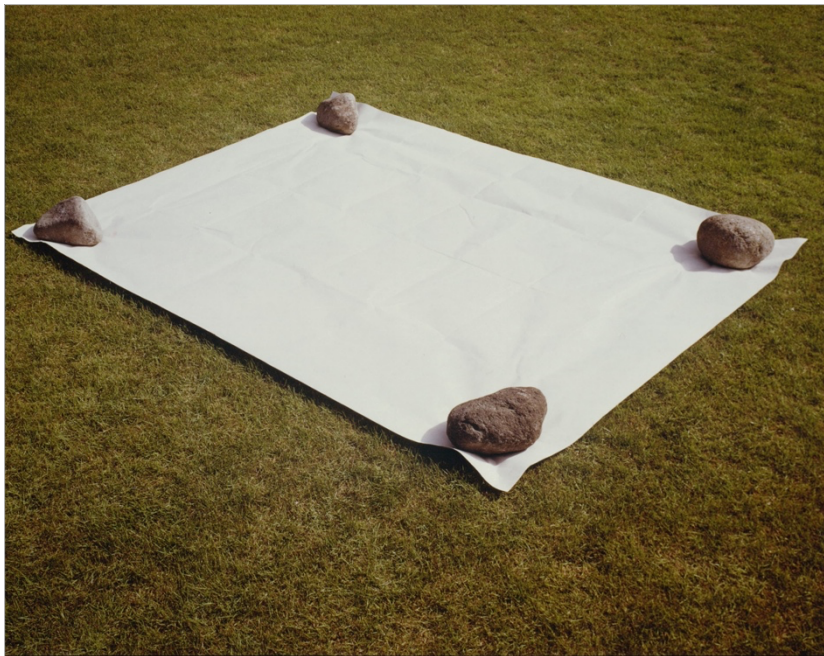




吉田 克朗

Katsuro Yoshida – and the starting point of Mono-ha



記録写真「Cut-off (Paper Weight)」, 1969 / ©The Estate of Katsuro Yoshida, Courtesy of Yumiko Chiba Associates.

会期：2024年6月8日(土) - 8月10日(土)

~~*6月8日(土)18:00-19:00にオープニングレセプションを行います。~~

*終了しました

会場：Yumiko Chiba Associates

東京都港区六本木 6-4-1 六本木ヒルズ ハリウッドビューティープラザ 3F

営業時間: 12:00-19:00 定休日: 日、月、祝日

この度、Yumiko Chiba Associates では、吉田克朗個展「Katsuro Yoshida—and the starting point of Mono-ha」を開催致します。

「もの派」とは、おおよそ1968年～1972年までの間に活動した、石や木、紙や綿、鉄板やパラフィンといった「もの」を素材そのままに、単体で、あるいは組み合わせることによって作品としていた一連の作家の動向で、吉田克朗（1943-1999）はその中心的な存在として知られています。

「もの派」の作品は、いわゆるインスタレーションとして展示されたのちは撤去され廃棄されたため、オリジナルの作品はほとんど残っていません。1986年にポンピドゥー・センタ（パリ）で開催された「前衛芸術の日本1910-1970」展をきっかけに、「もの派」作品の作者本人による再制作展示が始まり、私たちが現在、目にする作品の多くが、後年の再制作であるということは、「もの派」作品の特徴です。そのため、作家没後に再制作をすることは果たして可能なのか、その方法論や手法については議論する必要がありますが、この度、吉田克朗の制作ノートの調査を通じて、「もの派」時期の作品の制作思考、作品プランの解明が進み、当時の作品を再制作／再現することが可能になりました。

制作ノートとは、吉田が1966年4月～1999年8月までの間に断続的に書かれたもので、その内容は作品制作に関する思考のメモから、日々の暮らしの様子を記した日記まで多岐にわたります。特に、1969年～1971年および1978年のノートには「もの派」時期の作品に関する言及が多く、これらにより作品の成立や展開に関わる作家の思考をたどることができるようになりました。本展ではこの資料を基に《Cut-off (Paper Weight)》を展示し、作家没後の「もの派」作品を再制作／再現を行うものになります。

本作品は、1968年秋に吉田が関根伸夫の《位相—大地》の制作を手伝ったことをきっかけに生まれた作品で、《位相—大地》の経験は吉田にとって自身の「新しい美術」とは何かを問うものであり、その答えとして生まれた作品が本作品です。

本展では、その《Cut-off (Paper Weight)》の再制作／再現を中心に、彼の「Cut-off」（切り開く、切り取る）という概念を示す同時期の作品を紹介し、吉田にとっての「もの派」の起源に迫ります。

※また、この度没後25年を経て国内の美術館で初めての回顧展が神奈川県立近代美術館で開催され(その後埼玉県立近代美術館へ巡回)、本展はその開催に合わせて吉田克朗の制作活動の一端を紹介いたします。



吉田克朗の言葉 (『制作ノート』より)

「芸術」としてあるより以前に「物」はある。そして、その「物」は視覚的に「芸術の意味」より以前に自己に知覚（無意識のうちにも）として、認識されている。そして、芸術はそれを取り上げて、再度知覚させる事であると私は思う。それを取り上げて認識させる場合であるが、それを「芸術」として提示する人は「芸術」を認識する事になり、その物を取り上げて提示した事にはならず、「物」としてある作品を再度「物」として知覚させると言う事は、観衆がそれを「物」であると一度、視覚的に知覚していながら、それを再度、知覚させた時観衆はその「物」を「物」としてでなく、形而上のものとして受け止める。その時、物としてあった作品が初めて art としての作品になるのである。

出典：『制作ノート』 1969年2月15日(pp.18-19)

僕は選んだのだ、それを。そして、それを指定する。そして指定する為に提示する。提示するしか出来ないんだ。

出典：『制作ノート』1969年2月16日～17日 (pp.22-23)

それは、たとえば相対的に石であるとする。すると観客は概念的にそれは石であると、すでにずっと以前から識知している。しかし、それが石であるゆえんによって、観客は石以外のものを識知しようとする。そして、その時初めてartが出現するのである。artは作家だけにあるのではなく、作品だけにあるのではなく、観客だけにあるのではない。それらすべてが必要であり、そして、それらの関与度合いがそれぞれの時点に於て強烈である時、現出・成立する。

出典：『制作ノート』1969年3月14日 (pp.38-39)

■関連情報

【トークイベント】

六本木ヒルズ アルスクーリアトークイベント Vol.12

水沢 勉(元 神奈川県立近代美術館 館長) x 平野 到(埼玉県立近代美術館 副館長)

2024年6月15日(土)15:30-17:00 *受付開始 15:15-

参加費：無料

会場：ハリウッドビューティープラザ 4F



六本木ヒルズ アルスクーリアトークイベント Vol.13

山本 雅美(奈良県立美術館 学芸員)

2024年7月6日(土)16:30-18:00 *受付開始 16:15-

参加費：無料

会場：ハリウッドビューティープラザ 4F



協賛：ハリウッドビューティーグループ

登壇者プロフィール

水沢 勉 (Tsutomu Mizusawa)

元神奈川県立近代美術館長。1952年横浜市生まれ、1976年慶應義塾大学美学美術史学科卒業、1978年同大学院修士課程修了後、神奈川県立近代美術館に学芸員として勤務。1993年、1997年第6回、第8回バンガラデッシュ・アジア美術ビエンナーレにコミッショナー。2004年第26回サンパウロ・ビエンナーレにコミッショナー。2008年横浜トリエンナーレ2008「タイムクレヴァス」総合ディレクター。2011年より2024年まで神奈川県立近代美術館長。単著に『この終わりのときにも 世紀末美術と現代』思潮社、1989年『エゴン・シーレ まなざしの痛み』東京美術、2023年など。編著に『樹の瞳 宮崎郁子作品集』エゴン・シーレ没後100年宮崎郁子展 in krumau プロジェクト、2013年など。共編著に矢萩喜從郎との『点在する中心』春秋社、1995年、五十殿利治との『モダニズム/ナショナルイズム』せりか書房、2003年など。

平野 到 (Itaru Hirano)

埼玉県立近代美術館副館長。1992年より同館に勤務。「矩形の森—思考するグリッド」(1994)、「1970年—物質と知覚：もの派と根源を問う作家たち」(1995)、「イスラエル美術の現在」(2001年)、「長澤英俊展」(2009)、「清水晃/吉野辰海」(2012)、「浮遊するデザイナー—倉俣史朗とともに」(2013)、「ピカソの陶芸」(2014)、「ディエゴ・リベラの時代」(2017)、「大・タイガー立石展」(2021-22)などの展覧会に携わる。

山本 雅美 (Masami Yamamoto)

奈良県立美術館 学芸員。学習院大学人文科学研究科博士後期課程中退。専攻、日本現代美術史、美術批評、博物館教育。

主な著書に『吉田克朗の Cut - off という言葉について—“視ること”とミサイルの関係』(ユミコチバアソシエイツ、2018年)、「吉田克朗 制作ノート 1969～1978」(水声社、2024年)。主な論文に「吉田克朗の1968年-1979年 Cut - off シリーズから Work シリーズへ」(Fuji Xerox Print Collection 『吉田克朗』富士ゼロックス株式会社、2008年)、「吉田克朗の1968年-1972年 立体造形(オブジェ)の時代」(『東京都現代美術館2010年紀要』、2011年)などがある。

**【個展】****「吉田克朗展—ものに、風景に、世界に触れる」**

2024年4月20日(土) - 6月30日(日)
会場：神奈川県立近代美術館 葉山 (神奈川)

【関連イベント】**担当学芸員によるギャラリートーク**

日程：2024年6月16日(日)
時間：14:00 -14:30
集合場所：神奈川県立近代美術館 葉山館 エントランス
※申込不要、参加無料 (ただし高校生以上は本展の当日観覧券が必要)

座談会—吉田克朗と「もの派」

講師：平野到 (埼玉県立近代美術館)、山本雅美 (奈良県立美術館)、森啓輔 (千葉市美術館) *司会：西澤晴美 (神奈川県立近代美術館)
日程：2024年6月9日(日)
時間：14:00 -16:00
場所：神奈川県立近代美術館 葉山館 講堂
※先着 60名、申込不要、参加無料

「吉田克朗展—ものに、風景に、世界に触れる」

会期：2024年7月13日(土) - 9月23日(月・祝)
会場：埼玉県立近代美術館

【グループ展】**「印刷／版画／グラフィックデザインの断層 1957-1979」**

2024年5月30日(木) - 8月25日(日)
会場：京都国立近代美術館 4F コレクション・ギャラリー内 (京都)

【アートフェスティバル】**「AOMORI GOKAN アートフェス 2024」**

会期：2024年4月13日(土) - 9月1日(日)
会場：青森県立美術館、青森公立大学 国際芸術センター青森、弘前れんが倉庫美術館、八戸市美術館、十和田市現代美術館
※吉田克朗の作品は青森県立美術館の「かさなりとまじわり」展に出品されています。

「かさなりとまじわり」

会期：2024年4月13日(土) - 9月29日(日)
会場：青森県立美術館 コミュニティギャラリー、エントランスギャラリー、コミュニティホール、ワークショップエリア及び野外
※吉田克朗の展示はコミュニティギャラリーに展示されています。

【書籍】

この度、吉田克朗が遺した制作ノートをまとめた「吉田克朗 制作ノート 1969～1978」が山本雅美氏の編集により水声社から刊行されました。

「吉田克朗 制作ノート 1969～1978」

編集：山本雅美
発行年：2024年
発行：水声社
定価：3200円+税
装幀：宗利淳一+鈴木朋子





■アーティストプロフィール

吉田 克朗(1943-1999)

- 1943 埼玉県生まれ。
- 1968 多摩美術大学絵画科卒業。
- 1973 文化庁芸術家在外研修員として渡英。
- 1992 明星大学日本文学部講師となる(1993年より教授)。
- 1997 武蔵野美術大学造形学部油絵学科版画研究室教授となる。
- 1999 逝去

主な個展

- 2024 「吉田克朗——ものに、風景に、世界に触れる」 神奈川県立近代美術館(神奈川)、埼玉県立近代美術館(埼玉)
- 「吉田克朗——and the starting point of Mono-ha」 Yumiko Chiba Associates(東京)
- 2018 「吉田克朗 cut-off」 Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku(東京)
- 2013 「吉田克朗 触——Touching」 横田茂ギャラリー(東京)
- 「吉田克朗 “Red, Canvas, Electricity...” Paris 1971-Tokyo 1994 + Prints」 鎌倉画廊(神奈川)
- 2011 「吉田克朗 Rediscovered “Cut-off 18” 1970 + Photos」 鎌倉画廊(神奈川)
- 2008-09 「吉田克朗 Print Work 1969-1979」 Fuji Xerox Art Space(東京)
- 2006 「吉田克朗展——意識の散策」 カサヤの森現代美術館(神奈川)
- 1999 「故吉田克朗展——アトリエに残された作品を中心に」 SOKO 東京画廊(東京)
- 1988 「さまざま眼——10 吉田克朗展」かわさき IBM 市民文化ギャラリー(神奈川)
- 1987 「吉田克朗」東京画廊(東京)
- 1986 彩林画廊(神奈川)('88)
- 1982 「吉田克朗」アートフロントギャラリー(東京)
- 1979 「吉田克朗」東京画廊(東京)('87, '89, '92)
- 1978 「うっし絵から——吉田克朗展」ギャラリー手(東京)
- 1975 青画廊(東京)('77, '85)
- 1973 「吉田克朗作品展——ロンドンⅡ」ギャラリーココ(京都)('83, '89, '90)
- 「吉田克朗」かねこ・あーとギャラリー(東京)('74, '76)
- 1971 ビナール画廊(東京)
- 「吉田克朗」シロタ画廊(東京)
- 1969 田村画廊(東京)

主なグループ展

- 2022 「扉は開いているかー美術館とコレクション 1982-2022」埼玉県立近代美術館(埼玉)
- 2021 「フォトグラフィック・ディスタンスー不鮮明画像と連続階調にみる私と世界との距離ー」栃木県立美術館(栃木)
- 2019 「DECODE/出来事と記録ーポスト工業化社会の美術」埼玉県立近代美術館(埼玉)
- 「吉田克朗・成田克彦 カラーズ」 Yumiko Chiba Associates(東京)
- 2017 「Japanese conceptual photography from the 70's」 GALERIE 1900-2000 (パリ、フランス)
- 2015 「MONO-HA」, Fondazione Mudima (ミラノ、イタリア)
- 2014 「Other Primary Structures」 The Jewish Museum (ニューヨーク、アメリカ)
- 「Image and Matter in Japanese Photography from the 1970s」 curated by Yumiko Chiba, Marianne. Boesky Gallery (ニューヨーク、アメリカ)
- 2013 「Parallel Views: Italian and Japanese Art from the 1950's, 60's and 70's」 The Warehouse (ダラス、アメリカ)
- 2012 「太陽へのレイクイェム もの派の美術展」 Blum & Poe (ロサンゼルス、アメリカ) / Gladstone Gallery (ニューヨーク、アメリカ)
- 2010 「手探りのドローイング Drawing in the Dark 1969-1979」 東京国立近代美術館(東京)
- 2007 「What is Mono-ha?」 BTAP(北京東京アートプロジェクト)、BTAP Annex(北京、中国)、
- 2006 「MOT コレクションー1960年代以降の美術 特集展示: 吉田克朗/中村一美」 東京都現代美術館(東京)
- 2005 「もの派——再考」 国立国際美術館(大阪)
- 2001 「モノ派」ケトルズ・ヤード、(ケンブリッジ、イギリス) / ニューリン・アート・ギャラリー(コーンウォール、イギリス)
- 1998 「現代美術の磁場——1998」 つくば美術館・中央公園(茨城)
- 1997 「重力——戦後美術の座標軸」 国立国際美術館(大阪)
- 1995 「アジアーナ 極東からの現代美術」ヴェンドラミン・カレルジ宮(ベニス、イタリア)
- 「1970年——物質と知覚: もの派と根源を問う作家たち」 岐阜県美術館(岐阜) / 広島市現代美術館(広島) / 北九州市立美術館(福岡) / 埼玉県立近代美術館(埼玉) *本展は再構成され1996年にサンテティエンヌ近代美術館に巡回
- 1994 「モノ派展 Part2」 鎌倉画廊(神奈川)
- 「戦後日本の前衛美術」 横浜美術館(神奈川) / Guggenheim Museum SoHo (ニューヨーク、アメリカ) / サンフランシスコ近代美術館(サンフランシスコ、アメリカ)
- 1992 「今日の作家たちⅣ ー'92——山本正道・吉田克朗展」 神奈川県立近代美術館[旧鎌倉](神奈川)
- 1991 「もの派の作家たち展 Part 1」 鎌倉画廊(神奈川)
- 「第34回安井賞展」、セゾン美術館(東京)
- 1990 「第26回今日の作家 '90 <トリアス>」 横浜市民ギャラリー(神奈川)



- 「ミニマル・アート」国立国際美術館（大阪）
1989 「日豪交換現代日本美術展 アート・エキサイティング '89—現在を超えて」 埼玉近代美術館（埼玉）、同年クイーンズランド美術館（クイーンズランド、オーストラリア）
「第9回ハラ・アニュアル」 原美術館（東京）
1988 「モノ派展」ローマ大学附属現代美術館（ローマ、イタリア）
1987 「もの派とポストもの派の展開 1969年以降の日本の美術」 西武美術館（東京）
1986 「前衛芸術の日本展 1910-1970」 ポンピドゥー・センター（パリ、フランス）
「モノ派 Part 1」 鎌倉画廊（神奈川）
1985 「現代版画の軌跡展」 福島県立美術館（福島）
1984 「版画の今日 埼玉の現代美術」 埼玉県立近代美術館（埼玉）
「第3回東京画廊 ヒューマン・ドキュメント'84/'85」 東京画廊（東京）
1983 「ビルギッド・ショールドとその仲間たち」 南天子画廊（東京）
1981 三十周年記念展「十人の画家たち」 神奈川県立近代美術館（神奈川）
1978 「第4回ノルウェー国際版画ビエンナーレ」（ノルウェー）
1975 「第11回リュブリアナ国際版画ビエンナーレ」（旧ユーゴスラビア）
1974 「Japan: Tradition und Gegenwart」 デュッセルドルフ市立美術館（デュッセルドルフ、ドイツ）
「第9回東京国際版画ビエンナーレ」 東京国立近代美術館、京都国立近代美術館 巡回（-1975）
1973 「第8回ジャパン・アート・フェスティバル」 東京セントラル美術館 アメリカに巡回
「Japanese Prints Show」 Oxford University Press（イギリス）
「Graphics from Print Workshop-London」 Boston University Art Gallery（ボストン、アメリカ）
1972 「第4回クラコウ国際版画ビエンナーレ」 クラコウ市立美術館（クラコウ、ポーランド）
「ベスピオ大作戦プロジェクト」 南画廊（東京）/ Centro Gallery（ナポリ、イタリア）
「The 1st Contemporary Japanese Graphics Exhibition」（ロンドン、イギリス）
1971 「第10回現代日本美術展〈人間と自然〉」 東京都美術館/ 京都市立美術館/ 愛知県文化会館 巡回
「第7回パリ青年ビエンナーレ」 パルク・フローラル（ヴァンセンヌ、フランス）
1970 「第7回東京国際版画ビエンナーレ」 東京国立近代美術館 / 京都国立近代美術館 巡回（-1971）
「第1回ソウル国際版画ビエンナーレ」 徳寿宮現代美術館（ソウル、韓国）
「今日の作家 '70年展」 横浜市民ギャラリー（神奈川）
「1970年8月：現代美術の一断面展」 東京国立近代美術館（東京）
「現代美術の動向」 京都国立近代美術館（京都）
1969 「現代美術の動向」 京都国立近代美術館（京都）
1968 「第8回現代日本美術展」 東京都美術館（東京）

主な所蔵先

神奈川県立近代美術館
国立国際美術館
埼玉県立近代美術館
高松市美術館
東京国立近代美術館
東京都現代美術館
British Museum
The Museum of Modern Art, New York
JPMorgan Chase Art Collection

